

## 学部学科再編構想について

## 1 趣 旨

法人化後の県立大学が、独立行政法人制度のメリットを活かし、自主的・自律的な大学運営を行いつつ、厳しい大学間競争を勝ち抜いていくことができるよう、教育研究の内容や学部学科の組織のあり方について見直しを行い、学問の進展や社会の要請に的確に対応した特色ある教育研究の効果的、効率的な展開を図る。

## 2 見直しの方向

## (1) 看護、栄養分野における連携教育の効果的な推進

高齢化や生活習慣病の常態化が進行する中、人々が地域において健康で自立的な生活を安心して営む上で、医療面と栄養面の両面からの支援が望まれており、両者の連携、統合が必要となっている。

県立大学は、県内唯一の管理栄養士養成施設としての生活科学部栄養学科を、県内初の看護学部看護学科を設置し、それぞれの分野において先導的役割を果たしてきたところであり、その実績を活かし、看護、栄養分野における連携教育を今後一層効果的に推進するため、看護学部看護学科と生活科学部栄養学科を一つの学部として再編成する。

## (2) 社会福祉分野における多様な地域ニーズへの対応

安心して子育てできる社会や、障害のある人も自立した生活ができる社会の構築など、社会福祉学への期待はますます高まっている。

県内ではじめて社会福祉学部を設置し、この分野において先導的役割を果たしてきた県立大学としては、このような地域ニーズに応え、保健、医療との連携を引き続き推進するとともに、福祉教育や精神保健福祉に関する教育内容を充実する。

## (3) 文化交流と文化創造の融合

地域と地域、人と人との交流へと国際交流がより身近なものとなるなかで、地域に根ざし、普遍的な価値のある文化を発掘・創造し、発信していくことがますます重要になっている。

これまで、国際文化学部国際文化学科は、自文化理解と他文化理解、他文化との交流能力の育成等に取り組み、生活科学部環境デザイン学科は、地域性、文化性、歴史性を重視した豊かな生活空間の創造に取り組んできた。

両学科は異なる学部にあいながらも、文化の交流、文化の創造という相

互に密接なかかわりを有している。

このため、両学科を一つの学部として再編成し、個性豊かな地域文化の進展に資する教育研究をより効果的、効率的に展開する。

#### (4) 環境に関する教育研究の見直し

生活科学部生活環境学科は、家政学部食生活科学科を平成10年度に名称変更し、食生活を含め身近な生活空間と環境とのかかわりに関する教育研究を行う学科として現在に至っている。

環境にかかわる学問については、環境動態解析、環境影響評価・環境政策、放射線・化学物質影響科学、環境技術・環境材料等を扱う「環境学」が新しい領域として発展する一方、環境問題を普遍的な科学教育として学ぶ「環境教育」が一つの領域として形成されてきている。

生活環境学科は、上記の「環境学」の専門研究の基盤をもたないことから、これに取り組むには新たな教員の確保や相当の財源も必要となる。

県立大学としては、将来にわたる教育研究の質の確保、他の高等教育機関との機能分担や経営の安定性、効率性等の観点も踏まえ、環境については、今後とも学科を維持して専門の教育研究を担っていくのではなく、人々の生活に身近な教育研究を行う大学として、環境に配慮した行動の大切さを日常生活の中に根付かせる「環境教育」を全学共通教育として展開するとともに、地域共生センター等において研究活動を行っていく。

#### (5) その他

ア 現行の学部学科に在籍している学生については、その卒業に至るまで現行の教育を継続する。

イ 学部学科の再編にあわせ、大学院修士課程（博士前期課程）についても専攻再編等を実施する。

#### 3 実施時期

平成19年度を目途とする。

#### 4 学部学科再編構想の概要

別紙のとおり。

(別紙)

中期計画原案に掲げる学部学科再編構想

現 行			再編構想 *中期計画(案)No.151		
学部、学科の名称		入学 定員	学部、学科の名称		入学 予定 定員
国際文化学部	国際文化学 科	80	国際文化学部	国際文化学 科	(60)
				文化創造学 科	(50)
社会福祉学部	社会福祉学 科	80	社会福祉学部	社会福祉学 科	(100)
生活科学部	生活環境学 科	25	/	/	/
	栄養学科	30			
	環境デザイン 学科	25			
看護学部	看護学科	40	看護栄養学部	看護学科	(50)
				栄養学科	(40)
学部計		280	学部計		(300)